

「日々の理科」(第2667号) 2021, 11, -1  
「アナグリフ多摩川源流への旅(6)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka



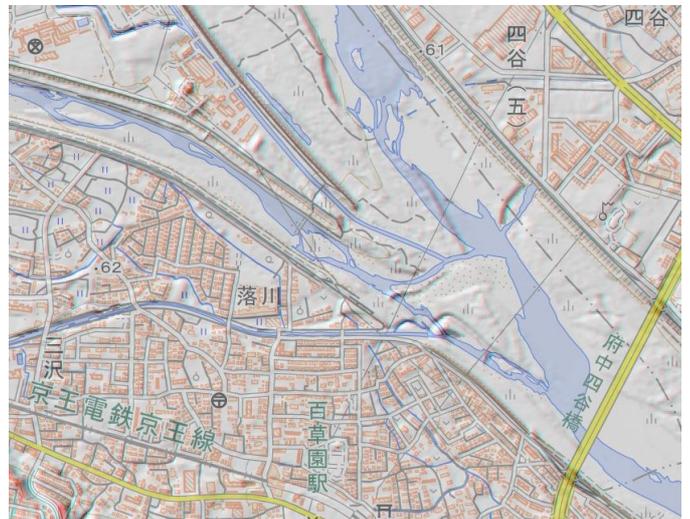
多摩丘陵と多摩川本流が最も迫っている、是政橋付近。現在の是政橋から見た多摩丘陵が上の写真である。大竹新助が写真を撮った頃(昭和30年台)には、対岸(多摩丘陵側)にはほとんど建物は見られなかったが、現在はマンション、民家、商業施設が林立している。しかし、多摩丘陵そのものの起伏にはあまり変化がない。



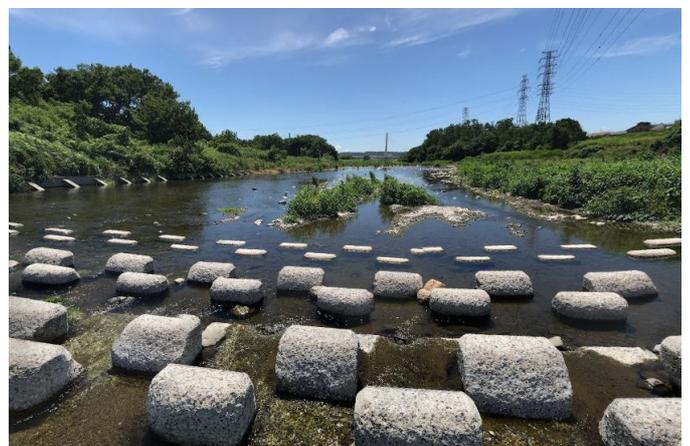
新宿と京王八王子を結ぶ「京王本線」は、多摩川の左岸(北側)に線路があるが、中河原駅(府中市)と聖蹟桜ヶ丘駅(多摩市)の間で、ついに多摩川を渡る。多摩川を直角に横切る為に、両端で大きくカーブする形に線路を敷設している。このあたりは流れが緩やかで、大きな「中州」も存在する。京王本線で最も長大な橋梁だ。京王線に限らず、都内と都下や神奈川県を結ぶ鉄道路線は、どこかで多摩川を渡ることになる。



写真は府中市側(多摩川左岸側)から見た、京王本線多摩川橋梁である。長大な編成の電車を、障害物なしに撮影できるので、京王の電車ファンには人気の撮影地点だ。私も小学生の時に父と撮影した記憶がある。



京王線が多摩川を渡った少し上流で、多摩川は2つの支流と合している。地形図の上方が「多摩川本流」、真ん中が「浅川」、下方が「程久保川」である。「浅川」は五日市を流れる「秋川」と並ぶ、多摩川の代表的な支流で、八王子市中心部も流れている。



「浅川」は名の通り浅く、私は子どものころ、こんな場所でよく水遊びをした。河原の転石から化石も見つけ、さまざまな学びの場であったような気がする。